

AALA ニュース 100号の内容紹介

編集部

100号の内容を紹介します。今号はウクライナ緊急特集で、9本の記事が掲載されます。

最初の7本が、日本 AALA を始めとする各界の声明です。その後の2本は外交誌などに寄せられたウクライナ関連の評論です。99号の2本とあわせお読みください。

これらの記事を通読してみて分かるのは、日本の論調には NATO そのものの認識と視野が欠如していることです。日本にとってサンフランシスコ＝安保体制が決定的なように、ロシアをふくむ欧州にとっては NATO が決定的なのです。

「ウクライナ停戦」がいかなる形で実現しようとも、それから先、軍事同盟の問題は重くのしかかってくるでしょう。

軍事同盟は平和と独立のためには役立たず、逆に戦争をもたらす火種となる可能性があります。非同盟＋多国間主義こそが平和を保証することになるでしょう。

なお、そういうことで、100号記念（ささやかな）は次回に回します。（1、2、3の紹介は略）

4. ウクライナ平和主義運動「ウクライナからの平和メッセージ」

最初はウクライナの市民勢力からの発信です。

1ヶ月前、デモクラシー・ナウに出演した、ウクライナ「平和主義運動」のユリ・シェリアジェンコ事務局長のインタビューです。現地で良識を保っている人々の証言です。

私たちの出発点にすべき考えを含んでいます。

5. 米国共産党 (CPUSA) 「ウクライナの戦争をやめよ、ロシアは戦争するな、“戦争という時代”はいらない！」

若干ロシアよりの意見のような気もしますが、知られていない情報も多くふくまれています。

6. インド共産党 M 「ウクライナ_優先すべきは平和」

短いが示唆に富む文章です。ご一読を。

7. 南アフリカ外務省 「ウクライナの事態に関する声明」

AALA の非同盟諸国の平均的な反応を知るうえで参考になります。学習会用には以上の4本をご活用ください。

8. エイブリー 「NATO の違法性を検証する」

ALAI に掲載されたジョン・スケイルズ・エイブリーの論文で、今回の事態の影の主演 NATO に光を当てた分析です。(ややムズ)
NATO なしにこの事件はなかったことがわかります。そして非同盟の運動を強化すべきことが痛感させられます。

9. サックス 「ウクライナの主権をどう守るか」

「プロジェクト・シンジケート」に掲載された評論で、著者は米コロンビア大学教授のジェフリー・D・サックスです。欧米諸国はウクライナの味方のような顔をしているが、本当にそうなのだろうか？
という問いかけから出発しています。
当面は西側が無用かつ無責任な挑発をやめること、NATO とロシアとが、地政学的境界を相互確認することに注力するよう呼びかけています。